

本物の反転授業は ここから始まる

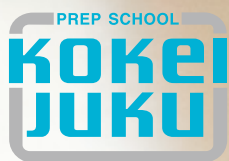
- オリジナルのデジタル教材
- 定性的な学習ログの分析

【映像配信 + 対面講義】

生徒に寄り添う
本物の反転授業

- 先生と生徒の信頼関係を築く
- なにがわかっていないのかが明確になる
- 問題演習の意味を知る

本質的な勉強の方法・
問題の解き方が身につく



大学予備校
壺溪塾

学校法人熊本壺溪塾学園

壺溪塾 大学受験科・公務員専攻科・高校ジャンプコース
専任講師 国語科主任

甲斐 資子 先生

かい もとこ

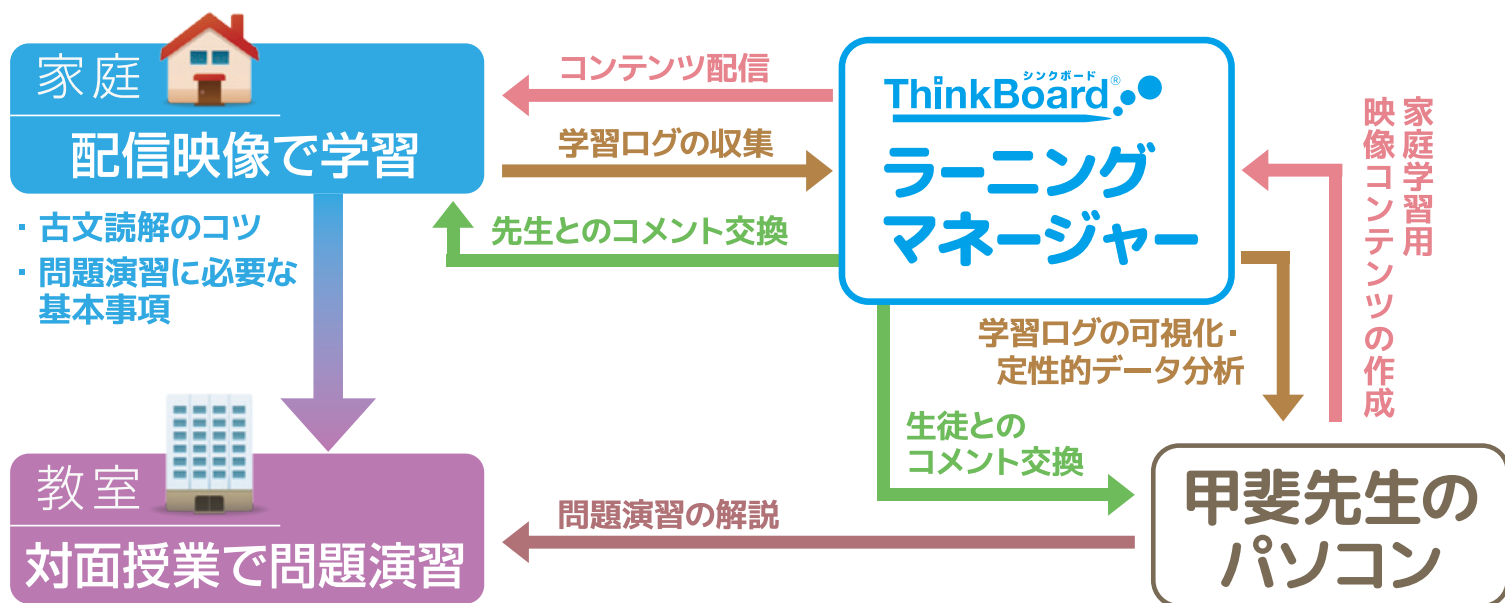


教室での授業は 問題演習から始まる

静かにスタートする授業。本番さながらの緊張感で問題演習に取り組む生徒。

“ 私の授業で、私が最初にすることは
“生徒の観察” です。

【甲斐のセンター古文】 授業の構造



“ 私が観察するのは、問題演習に取り組む “生徒の表情”

教室での対面授業では、彼らの反応を観察しなければなりません。最近の子は、うんうんうなづくとかあまり表情を出さないんです。目立つこと、他の生徒から突出するようなことはしない。でも、ThinkBoardラーニングマネージャ（以下、TBLM）を使ったコメントのやりとりや学習ログの確認を通して、みんなが映像を見てきているかとか、どんなところでつまづいてるかとか、私はわかってるわけです。

だから、生徒が解いている表情を観察すれば、「ああ、はいはい、ここは何度見てもわからなかったところだよな」とか、「はいはい、その表情はあまり見てなかったからだよな」というのが手に取るようにわかるんです。

なかには「あなたのそのわかってる顔は、このポイントを何度も見て努力した、きちんと理解したからそういう得意げな顔なのね」というのもわかるんです。

私がこのTBLMを使った反転授業を始めてみて、他の授業と明らかに違うなって思ったのは、ここですね。



対面授業では何をすべきか

本気で問題演習に取り組んだあと、生徒に確認してほしいのは「解けた理由」と「解けなかった理由」。



配信映像を使って

きちんと勉強してきた

問題演習で

きちんと解けた

知識や考え方が身についている

解けなかった

わかったつもりでわかっていなかった

▶ 授業時間のなかで、このことに気がつくことができるのは反転授業の効果。普通の座学型の授業では、「わかったつもり」のまま終わってしまう。



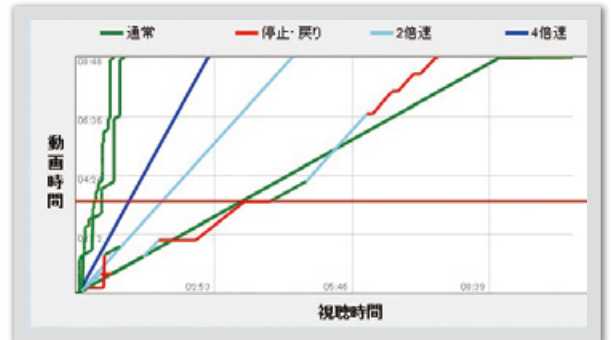
反転授業が優れているのは、授業の中で「何がわからなくて解けなかったのか」が明確になるところです。漠然とわからないまま授業を受けて時間がきたら終わりという形の授業ではないからです。

配信コンテンツを何度か視聴すると、「どうやらここを覚えないと解けないらしい」ということがわかってくる。覚えないといけないということがわかると、じゃあ自分は何をしなければならなかったかというのわかる。すなわち、古文に対して何がどれくらいわからないのか、なぜわからないのかということ、彼ら自身が家庭で確認しているということなんです。そして対面授業での20分間の演習をやってみて、解けなかったのは配信コンテンツのあの箇所を理解していなかったからだ、ってことに気付くんです。

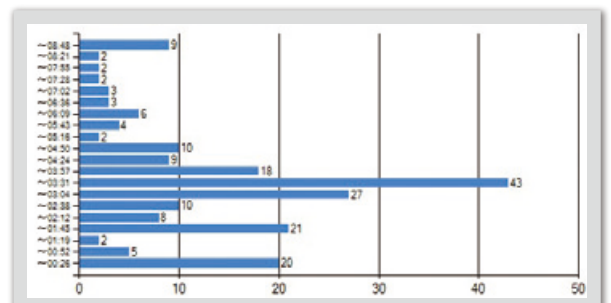
言うなれば、配信コンテンツと対面授業の間に、知識を整理する見えないフィルタのようなものがあるということでしょうか。それが私の「反転授業の本質」なんです。「わかったつもりだったのに、本当はわかってなかった」ということに、教室で気付くことができる。「反転」じゃなかったら、生徒が自分の学習の中でそのことに気付くのは難しい。それに気付かずにわからないことが増えていくと、古文の勉強が面白くなって、ますます苦手になる。そしてそのうち、なにがわからないのかもわからなくなって、授業に出なくなってくる。そうなったら、私たち教師の負けですよ。生徒を引きつけることができない、離れていってしまった、それは教師の負け。そうならないよう、打ち解けたコミュニケーションが図れるのもTBLMの優れたところだと思います。



平成25年度の最終講義（12月6日）で実際に使われた映像コンテンツの一部（約38分）。イラストでの解説や、色分けされたペンの使い方など、理解を促す工夫が随所にちりばめられている。



TBLMで測定できる生徒の視聴ログ。映像コンテンツの「どの部分を」「どんなスピードで」視聴したかなど、定性的な視聴状況が把握できる。



生徒が映像を視聴する際の操作ログ。映像のどのあたりで早送り・早戻しなどの操作をしたかが測定でき、その映像自体のわかりやすさの指標にもなる。

本物の反転授業を始めよう

教職員であれば誰もが目指す「きめ細かな指導」。反転授業は、その実現の第一歩になり得る選択肢です。

反転授業は、「なんとしても生徒達の学力を引き上げたい」という情熱のある先生や、「自分の授業を進歩させたい」、「自分の“オリジナル”の授業を確立したい」そんな前向きな先生におすすみたいですね。

私の場合、作ったコンテンツは必ず同僚に見てもらって、アドバイスをいただくことにしているんです。やはり教師って、自分のやり方っていうのができてしまうとそれに安住しちゃうんですね。でも、ThinkBoardのコンテンツであれば、同僚や生徒、そして自分自身でも客観的に指導の様子を見ることができます。「これ何にも伝わってない！」ってがっかりしたり、自分では上手に伝えられたと思ってても、生徒のコメントや学習ログを見てみると全然的が外れていたとか。

一人ひとりの期待に応えてあげたい。そのためには自分の授業力も上げていきたい。反転授業は、そういう志ある先生にはとてもいい授業システムだと思います。

TBLMを使ったコメントのやりとり(抜粋)

生徒 落窪物語は何度も問題で触れていてなんとなく話の流れがわかっているからか、説話集よりも読みやすい気がしました。帯刀いい人！難しかったです…。

甲斐先生 その悔しさがバネになる!!ほんと、悔しかったね。帯刀…よい部下を持つかどうかは大切で、人生をも左右します。貴族でも同じですね。

■反転授業のススメ

まずは一つの単位だけでいいからコンテンツを作ってみてほしいですね。いつもの授業を収録してみて、授業の組み立て方や言葉の使い方、その表現で生徒に届いていたのかなってということが一人でも確認できます。あるいは、先輩の先生に作ってもらって、そのコンテンツを見て自分の授業力を高めるって言うこともできるでしょうし、複数の先生方で分担して、例えば評論文の解説はこの先生、詩や韻文はこの先生っていうふうに取り組むとか、あとは、ある先生が背景画像を作って、別の先生がそこに授業をのせるとか、そういうコラボもできます。コンテンツのコラボはおもしろい

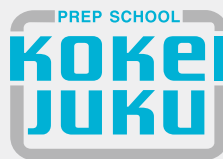
と思いますよ。予備校や学校の先生が総力を挙げて勉強が苦手な生徒を救う、そういうアクションにピッタリなツールです。

■反転授業の将来

反転授業の概念は、これから主流になってくるでしょうし、究極的には生徒へのきめの細かい指導につながっていくものです。教育から離れたところ、違う次元にあるんじゃないかと、教師であれば誰もが目指すところに普通に存在するものでしょう。もちろん、学校の種別や学年や生徒数などの「できない理由」はいっぱいあるわけですけど、もし、それを取っ払うことができたなら、だれしものが目指すもの、目指すべきもの、「ゴール」です。

だから、繰り返しになりますが、なにかひとつの教科、ひとつの単元でいいじゃないですか、まずは取り組んでみてください。教科の枠を超えていろんな先生とコラボしてみてください。対象となる生徒もいろいろ考えられますよね。とりこぼれていってしまう何人かでもいいし、飛び抜けて優秀な何人かでもいいわけです。少人数であれば、生徒が多いからできない、補助の先生がいないからできないといったことを取っ払ってすぐに始められるでしょう。

きめ細やかな指導っていうのは、別に先生がたくさんいなくちゃいけないとか、少人数じゃないといけないってことではないんですね、本当は。教育の現場にあるいろいろな問題を解決してくれるのが教育ICTであって、こういう新しい授業の仕組みであって、ThinkBoardのようなアプリケーションなのだと思いますよ。



<取材協力：学校法人熊本壺溪塾学園・甲斐資子講師>

1930年、木庭徳治により設立。1966年に学校法人、1976年には専修学校として認可。塾生を中心とした温かで人間的な指導を心がけ、大志を抱く若者から応援する予備校として、時代に合わせたきめ細かな指導を行っている。

Zetta ゼッタリンクス株式会社

<東京本社> 〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-14-4 KYビル5階
Tel. 03-5615-3761 Fax. 03-5615-3762

